

niigatabito

NIIGATA U·I-TURN FREE MAGAZINE

2018.- vol.01



ニイガタビトのニイガタスタイル



△WEBでもニイガタビトの情報をお届けしています△

新潟県U·Iターン総合サイト 「にいがた暮らし」

300件以上の移住者インタビューを発信中!

<https://niigatakurashi.com/>
にいがた暮らし 検索



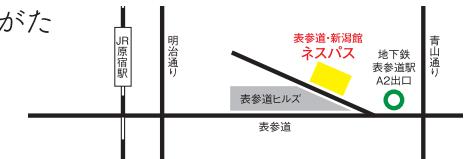
<https://www.facebook.com/niigatakurashi/>



△新潟県への移住のご相談は△

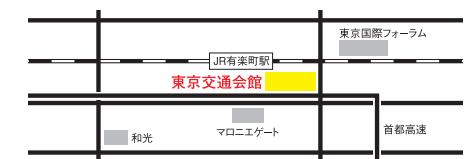
にいがた移住支援デスク・ココスムにいがた 表参道オフィス

東京都渋谷区神宮前4-11-7 表参道・新潟館ネスパス2階
10:30~18:30(火曜日・祝日・年末年始を除く)
TEL.03-3479-1415
mail niigatakurashi@pref.niigata.lg.jp



有楽町オフィス

東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8F
NPO法人ふるさと回帰支援センター内
10:00~18:00(月曜日・祝日・お盆・年末年始を除く)
TEL.090-1657-7263(相談員直通)
mail niigata@furusatokaiki.net



△新潟県へのU·Iターン就職のご相談は△

にいがたUターン情報センター

東京都渋谷区神宮前4-11-7 表参道・新潟館ネスパス2階
10:30~18:30(火曜日・祝日・年末年始を除く)
TEL.03-5771-7713
mail niigata_u-turn@pref.niigata.lg.jp

<http://www.niigata-uturn.jp/>
にいがたUターン情報センター 検索



△新潟県へのU·Iターン転職・暮らしのご相談は△

新潟県U·Iターンコンシェルジュ

新潟県U·Iターンコンシェルジュ事務局(株式会社パソナ パソナ・新潟)
【東京事務局】
東京都千代田区大手町2-6-2 パソナグループ JOB HUB SQUARE
TEL.03-6734-1358
【新潟事務局】
新潟市中央区上大川前通7番町1230-7 ストーカビル鏡橋3階
TEL.025-374-7410
【東京・新潟共通】
平日 9:00 ~ 17:30
mail k.niigata@pona.co.jp

<http://www.niigata-uictc.com/>
新潟 コンシェルジュ 検索





ニイガタビトのニイガタスタイル

そんな豊かな自然、四季を持つ新潟に移り住み、生き生きと暮らす人々がいます。「子育てと仕事を両立しながら地域の楽しみ方を見つける」「自然の中で仕事に動かしむ」「地域の人と未来を考える」。新潟での暮らし方は人それぞれで、みんなと共に共通しているのは、その屈託のない笑顔です。新潟という土地が、新潟に住む人が笑顔を支えてくれています。

新潟の多様な自然は、山登りやスキー、スノーボード、サーフィン、ダイビングといった楽しみ方の多様さにもつながっています。新潟の自然公園は全国で二番目に広く、子どもも自然の中でのびのびと遊ぶことができます。どの主要都市からも、少し車を走らせば、のどかな田園風景、もう少し移動すると山の麓や海岸へとたどり着きます。都市部で暮らす、田舎で暮らすなど求めるライフスタイルに合わせて場所を選ぶことができる県です。

高く険しい越後山脈と広大な越後平野。その先に果てなく広がる日本海。大陸から流れ込む季節風が、南北に立ちだかる山脈にぶつかって降る雪の量は世界有数と言われています。この雪が春になると雪解け水となり、信濃川と阿賀野川といった大河となつて肥沃な大地を育み、新潟は日本一の米どころ、酒どころとなりました。また、雪解け水は山からの栄養分を海へと運び、豊かな漁場をつくります。こうした多様な大自然の恵みが独自の食文化を築いてきました。



南魚沼の自然を活かして遊ぶ・働く！

田舎ならではの豊かさを実感

中学生の頃に自宅で古い一眼レフカメラを見つけて以来、カメラの魅力に取りつかれ、フォトグラファーを目指して上京した酒井さん。故郷にヒターンしたのは2005年のこと。その理由を「写真作家になることに挫折して…」という酒井さんは優しく受け入れてくれたのが故郷の大自然でした。「遠くの山まで見える景色。真っ白に広がる雪原。空を映す水を張った一面の田んぼ。その風景ひとつひとつに感動しました。都会はまるで壁の中から出て壁の中へ移動している感覚で息苦しかったと感じていた酒井さんにとつて、故郷の「抜け」がある風景が何よりも気持ちよく、創作意欲を刺激してくれたそうです。

ヒターン後は、衣装店でフォトグラファーとして働く傍ら、プライベートではイベントに顔をだすなどして友だちも増えていきました。「田舎でも遊び場は実はたくさんあります。六日町にあるクラブではすごくセンスのいいヒップホップを楽しめたり、野外フェスが各地で開かれています。レゲエの人たちがサウンドシステムを作り出して音を出すには山の方が多いそうです。そんな風に

田舎だからこそできることを楽しんでいる人が多いと感じました」。酒井さんは自身も、食文化の発信や、観光振興、まちづくり活動、音楽レベルに参加するなど、自分の感性や興味を活かして地域活動に積極的です。気持ちいい景色の中で、美味しい食を味わい、家族や仲間に囲まれて、田舎ならではの豊かさを満喫しています。

ローカルだからこそできる仕事



あります。プレイヤーが少なくて目立つから、周りが活躍させてくれるのがあります。

仕事だけでなく、作品作りにも積極的。雪が降る土地だからこそその風景、文化をもっと多くの人に知ってもらおうと活動しています。中でも力を入れているのが泳ぐ宝石と言われる錦鯉

シキゴイ」と外国人に言われること。ナルの作品を撮影しています。「目標は、日本といえば『ゲイシャ・フジマニア』で、自分が地域活動に積極的です。気持ちいい景色の中で、美味しい食を味わい、家族や仲間に囲まれて、田舎ならではの豊かさを満喫しています。



niigata-bitto 01
H. Sakai



data

ヒロスイ写真館 代表／フォトグラファー
酒井 大さん 南魚沼市在住

魚沼市(旧北魚沼郡守門村)生まれ。写真を仕事にしたいと大学進学を機に上京。卒業後にフリーのフォトグラファー、大手印刷会社の写真部でアシスタントを経験しデーター。広告、人物、物撮り、スナップ撮影、地域プロモーション映像など幅広く対応する。

年表

1981年	新潟県魚沼市小出島98
2000年	大学で写真を学ぶため上京
2005年	Uターン。ブライダル撮影スタッフとして勤務
2006年	結婚、第一子誕生。
2014年	「ヒロスイ写真館」として独立

子どもと過ごす新潟市での暮らし



産後うつ寸前の私を救ってくれたのは“人”

夫の転勤で新潟市に移り住んだ野澤さん。2015年に新潟市へ転居してと仕事の両立に奮闘しています。

新潟に来たばかりのころは生後3ヶ月のお子さんの生活。夫は早朝出勤、深夜帰宅でまとまに会話できるのは週末だけだったそう。「不安と孤独に悩まされる中、救ってくれたのが、夫の実家やママ友、地域コミュニティでした」

義理の姉が1年先輩ママとして、育児の情報を教えてくれました。紹介されて通いはじめた子育て支援センターでは、転勤で新潟に来た新米ママさんがたくさんいて、「転勤ママ友もできました」と喜んでいました。同じ頃にママ友に教えてもらった「ゆりかご学級」という行政の子育て支援プログラムにも参加。1ヶ月の講座中には同じ月齢の子どもをもつママさん達が集まり、今でも関係は続いているそう。「知識面と精神面どちらも講座があつたからこそ肩の力を抜いて暮らせるようになりました。余裕がなかった東京での生活を思い出すと、新潟で育児をスタートできて良かったです」。

ちようどいい地方都市、新潟市



を活かせる求人に出会うことができませんでした。そこで「どうせゼロ地點なら、人に喜ばれることを仕事にしよう!」と、企業広報とフリーライター業で個人事業主として事業をスタート。ありがたいことに一度も営業することなく、すべて紹介や人脈で仕事をすることができます。「まずは外に出て出会いを増やし、自分はこれがしたい!」と勇気を出して発信しつづけることが大切だと実感しました。“子どもがいても、経験を活かして働きたい”と思えばそれが叶う場所だと思っています」。

独立開業という選択。
ゼロ地点からのスタート

東京で企業広報の仕事をしてきた野澤さん。しかし新潟では自分の経験



data

スミレキカク 代表／フリー広報兼フリーライター
野澤 知子さん 新潟市在住

青森市に生まれ、東京で仕事に勤しむも、夫の転勤により、新潟市に移住。初めての土地、初めての子育てに悪戦苦闘するが、夫の実家やママ友、地域コミュニティに救われる。現在は、フリー広報兼フリーライターとして独立し、子育てと仕事の両立に奮闘中。

年表

1983年	青森市にて生まれる
2002年	仙台の大学へ進学。大学卒業後、東京で人材、ITベンチャー、大手グループ運営会社にて主に企業広報。
2015年	第一子を出産。夫の転勤先である新潟市に転居
2016年	フリー広報兼フリーライターとして開業
2017年1月	第二子を出産



私がご紹介!
子育てがしやすいまち
新潟市 check!

新潟県の北東部に位置する新潟市。人口80万人の政令指定都市でありながら、日本海や山など自然とも近い。保育所数が多く、子育てがしやすいまちです。

子育て支援プログラム ゆりかご学級

新潟市の子育て支援プログラムに企画委員として参加をしていました。同じ月齢の子どもを持つママ同士が交流し、育児を学びながら仲間をつくることができる貴重な場です。はじめての土地での子育てを支えてくれました。



みなとぴあ

異国情緒溢れるエリア。国登録有形文化財・旧第四銀行をリノベーションしたレストランが目を引きます。

Data

新潟県新潟市中央区柳島町2-10
Tel.025-225-6111
<http://www.nchm.jp>

ナチュレ片山

大人の豊かな暮らしを実現したような施設。ワイン、チーズ、加工食品、地場野菜など普通のスーパーでは満たされない満足感&特別感を得られます。

Shop data

新潟県新潟市東区御新町3-16-31
Tel.025-270-0088
<http://www.nature-katayama.jp>

こかけカフェ ロンブラン

新潟市美術館併設のベーグルカフェ。キッズプレートもあるので、親子連れにもおすすめです。

Shop data

新潟県新潟市中央区西大畠町5191-9
(新潟市美術館内)
Tel.050-3590-4402
<http://kokagedelulu.com>



人の温かさにふれる、上越暮らし

人と自然に恵まれた
充実ライフ

地方で独立しようと思ふ時に、上越市に移住した打田さん。2017年1月に「町家Café Re:イエ」をオープンし、現在はカフェの経営と共に内装業を営んでいます。打田さんの住まいは、上越市東本町。

街中の暑いしはねは通じてないといいます。「スープバーは近い、歩いて10分の場所には飲み屋街もあります。商店街の中には、八百屋や豆腐屋、みそ屋など古くから続いている」と歩いて買い物ができるコンベクトな町が気にいっているそう。上越に来てから、地域の人たちが支えてくれる心強さを感じています。「山菜やお米、野菜、魚と色々なものをいただいたり、ちょっととおいでよと家に招いてもらうことが多いです。近所付き合いは密に関わる地域ですね」。

また、自然に囲まれた環境に来たことで、体調が良くなつたといいます。「こちらに来てから、肌の調子が良くなりました。東京では働き詰めで、食事も気を使っていたなかったです。今は新鮮な野菜や魚が手に入りますし、自然も近く空気もきれいで。自分を取り巻く環境も、食の質も上がつたと感じているそ



内装業

そんな打田さんの仕事は、実は内装業。元々カフェを始めたのも、初めての土地でいきなり内装業を始めても受け入れてもらえる可能性は低いと考えたためでした。「カフェを作れば地域の人もくるし、色々な情報も入ってきます。自分がリノベーションしたカフェなら私ができる内装業の見本として使えるのでは

現在は、「一般社団法人雁木のまち再生」という団体に参加してまちづくり活動にも取り組んでいる打田さん。もと町家を再生する動きが出て来れば、街中に人が増えていくんじゃないかなと話し合っています。「東京で働いているときは、『定年後には残っているのだろう』と思っていましたが、今は地域の人と関わり合いながら暮らしています。人間関係が財産のように思います」。



data —

Re:Works 代表／内装業・カフェ経営
打田 亮介さん 上越市在住

年表	R.U.
1985年	北海道八雲町にて生まれる
2007年	設計事務所に就職し上京。
2014年	新潟県南魚沼市六日町出身の女性と結婚
2016年	退職し、新潟県・上越市へ。上越市東本町の雁木町家を借りる
2017年1月	「町家Café Re:イエ」オープン



新潟県上越市で生まれる
niigata-bitto R.Uchida

新潟県の南西部に位置する上越市。県内で3番目に人口が多く、大型ショッピングモールや総合病院などの施設も充実。自然と都市の機能が共存する地域です。

一般社団法人
雁木のまち再生

減少していく雁木町家を再生・活用し、地域活性化を促しています。雁木町家と町なみ景観の調査や活性化に関するコンサルティングなどを行っています。町家を探している方と古くとも素敵な建物をお持ちの方のパイプ役になりたい!との想いで活動しています。



The map highlights the area around Joetsu City, with three white dots indicating specific locations. An inset photograph shows the exterior of a traditional Japanese building with dark wooden frames and sliding doors, identified as the Kojima-dono dyeing house.

A photograph of a quiet street in the Gion area of Kyoto. The street is paved and lined with traditional Japanese wooden buildings. Some have signs with kanji characters, and there are utility poles with wires above. The sky is clear and blue.



継いでわかった、農業の奥深さと地域との関係性

自然の中でのびのび農と子育て



data
米農家
齊藤 康成さん 新発田市在住
1985年新発田市(旧紫雲寺町)生まれ。新潟大学人文学部卒業後、東京の不動産会社へ就職。東京で4年半生活するも、父親の「後継ぎがいなければ規模を縮小しようと思う」という言葉がきっかけで2013年に農業を継ぐためにUターン。27歳から農業の仕事をスタートした。



齊藤さんが住むのは、都市部から少し離れた自然豊かな地域。移住当初は、都会的な刺激が少なく、物足りなさを感じることもありました。しかし子どもが生まれ、子どもを中心の生活になると、自然豊かで、子どもを遊ばせる場所には困らない今の環境がありがたいと思うようになりました。農家の日が暮れるとできる仕事が少ないため、夜は家族と過ごす時間が多く取れるようになつたといいます。農業に関しては、継いでみてはじめて「奥が深い

仕事」と思ったそう。「作物によって肥料をあげるタイミングが違ったり時期にやるべき作業が変わってきた」。常に考えてやるべき作業が変わったときに、農家の皆さんと日頃から「どういう風に作物を作っている?」と情報交換をすることも。継ぐ前は、「地域の農家間での交流はあまりないのでは?」と思っていたそうですが、実際に普段の情報交換やJ.Aなどの組織を通じて交流が多くありました。近年、農業法人など経営力のある担い手が増えています。求人も農業の間口も広がっているそう。「農業をやりたい」と思う人が気軽にチャレンジしてくれるようになれば嬉しいです」と農業の未来に思いを馳せています。



お祭りへの参加や消防団への所属

7月に地域のお祭りがあり、神楽を踊っています。2日間歩いて回るので大変ですが、昼間からお酒を飲んで解放感もあり、楽しんで行っています。また消防隊にも所属。農家は基本的に平日も地元にいるので、有事の際には対応できるように準備しています。

data
大橋 賢太さん 燕市在住
1983年燕市生まれ。大学進学を機に上京。サイト制作に携わり、WEBデザイナーの道へ。イベント主催やWEBサイトで情報発信を行い、地域を盛り上げる。

data

米農家

齊藤 康成さん 新発田市在住
1985年新発田市(旧紫雲寺町)生まれ。新潟大学人文学部卒業後、東京の不動産会社へ就職。東京で4年半生活するも、父親の「後継ぎがいなければ規模を縮小しようと思う」という言葉がきっかけで2013年に農業を継ぐためにUターン。27歳から農業の仕事をスタートした。



齊藤さんが住むのは、都市部から少し離れた自然豊かな地域。移住当初は、都会的な刺激が少なく、物足りなさを感じることもありました。しかし子どもが生まれ、子どもを中心の生活になると、自然豊かで、子どもを遊ばせる場所には困らない今の環境がありがたいと思うようになりました。農家の日が暮れるとできる仕事が少ないため、夜は家族と過ごす時間が多く取れるようになつたといいます。農業に関しては、継いでみてはじめて「奥が深い

仲間と一緒に、地方に遊び場をつくる

05
ニイガタビト

田舎はやりたいことだらけ



bito 05
Ohashi
Ohashi

「んさじ」には実行委員長として携わっています。賢太さんは「地方に若者が残るには、遊び場」も必要だと思います。イベントはひとつのひとつで、「遊び場を作り出している、D.I.Y.している」という感覚もあるといいます。さらに皆でイベントをつくりあげることで繋がりが生まれ、仲間ができる機会にもなっています。東京でイベントをやると規制が多くあります。どちらでは自由に場所を活用させてもらえています。

都会では、仕事中心の生活でしたが、移住してからは仕事だけでなく、地域や遊びのことなどやることがいっぱい。「人とつながりを楽しみながら、やりたいことを一つずつ実現させていきたい。巻き込んで、巻き込まれて、みんなと一緒に遊びたい。それが『遊び場』をつくることに繋がっていくと思います」。

大橋賢太さん・泉さんご夫婦が住むのは、1,200坪という広大な庭のある貸家。家庭菜園をしたり、念願だった犬と暮らしたり、仲間とともに田舎ならではの暮らしを楽しんでいます。この家は賢太さんのお母さんの知り合いつてで借りることができたそう。誰かに聞けばみんなで探してくれるのが地域のネットワークなんだとか。家を借りるときに「みんなの家」とテーマを掲げ、実際に友達とバーベキューをしたり、海外からの旅行客を泊めたりしています。

また三条市下田地域で開催される、無料野外音楽イベント「三条楽音祭」(らくお



三条楽音祭

三条市下田地域で音楽フェスティバルを開催しています。準備は大変ですが、お客様の楽しそうな顔を見ると、やって良かったと思います。今年は10周年の三条楽音祭に遊びに来てください! <https://rakuonsai.com>

data
Webデザイナー
大橋 賢太さん 燕市在住
1983年燕市生まれ。大学進学を機に上京。サイト制作に携わり、WEBデザイナーの道へ。イベント主催やWEBサイトで情報発信を行い、地域を盛り上げる。

ハンドメイド作家
大橋 泉さん 燕市在住
1981年鹿児島県生まれ。大阪の大学を卒業後、オーストラリアへ。帰国後は英文事務として勤務。2010年に結婚し、2015年5月燕市に移住。



私がご紹介!
ものづくりのまち
燕市
check!

越後平野のほぼ中央、新潟市と長岡市の中间地点に位置する燕市。県下有数の工業地帯であり、金属洋食器、金属ハウスウェア製品は国内の主要生産地です。



ドッグカフェ&ラン 月うさぎ
ドッグカフェ、ドッグラン、トリミングルーム、ドッグホテルがある、犬と飼い主が楽しめる施設。
Shop data
新潟県燕市八王寺2542
Tel.0256-46-8661
<http://dogkaferuntukiusagi.p-kit.com>



藤塚浜海水浴場

白い砂浜が特徴の海水浴場です。夏には県内外からの海水浴客で賑わいます。近くにはキャンプ場や温泉もあります。

Data
新潟県新発田市藤塚浜海水浴場
Tel.0254-28-9960(新発田市観光振興課)
<https://www.city.shibusawa.niigata.jp>(新発田市ホームページ)

*この記事は2018年3月に取材したもの。

地域の文化を感じながら生活

伝統が息づく
暮らしが面白い



data
株式会社北前船 国内営業制作部
柳澤 美希さん 佐渡市在住

1994年上越市直江津生まれ。高校卒業後、東京の大学へ進学。就職活動時に東京で働くことに疑問を感じ、「まずは生活する場所を決めよう」と全国各地を旅する。佐渡に訪れた際に「ここで生きて行きたい」と移住を決意。現在は、太鼓芸能団体「鼓童」の公演手配やスケジュール管理などの仕事を行っている。



の中に自然と伝統や文化が息づいている様子が佐渡での生活の面白さなんだとか。地元の人に佐渡の歴史を聞くと、あるそうです。「普段歩いていると“なぜこのうなっているのだろう?”と疑問に思うことがあります。そういうものを掘り下げていくと必ず出てくるのが歴史です。地域の人々に話を聞きながら佐渡についても学んでいきたいです。」一方、会社では舞台チームをサポートする営業制作部に所属。全国各地の学校での演奏に付き添い、宿の手配やタイムマネジメントなど演奏以外のサポート業務を行っています。入社してからまだ1年弱。これからは自分の得意分野を見つけて、仕事をも生活も大好きな場所で充実させていきます。



お祭りへの参加

佐渡には町内のお祭りから大きな規模のものまで地域のお祭りが多くあります。どのお祭りも人々の繋いできた伝統や素朴な姿をそのまま受け継いでいます。笛で参加することも、練習では地域の人があたかく受け入れてくれるので楽しく過ごせています。



日和山
町屋古民家を改装した喫茶店で新潟北書店の出張所も併設。佐渡焙煎珈琲が味わえ、手ぬぐい等の雑貨類。

Shop data
新潟県佐渡市小木町232
Tel.025-520-7626(火曜定休)
<https://www.facebook.com/ogi.hiyoriyama/>

07 サテライトオフィスで 新しいワークスタイルを実現

東京と新潟の連携はツールを使って快適に

I.T.企業(株)テラスカイは上越市にサテライトオフィスを立ち上げました。オフィス開設に伴い、異動してきた原さんと笠輪さんは、上越市でテレワーク(場所や時間にとらわれない柔軟な働き方)を実践しています。「チャットツールやパソコン画面、データ共有、テレビ会議などのI.T.ツールを活用することで、思った以上にスマーズに仕事ができています」と原さん。オフィスは城下町高田の古い町家をリノベーションし、掘りこたつやカウンターキッチンを設置。一人で一部屋を丸々使うこともできます。



高校生と一緒にライブ!



上越総合技術高校のみなさんと数ヶ月に一度野外ライブを行っています。通った人が「上越が盛り上がっているな!」といった印象を持っていただけたらやりがいを感じます。

株式会社テラスカイ 上越サテライトオフィス
町家をリノベーションしたオフィス。プログラミング教室の開催等、地域の人と接する場としても機能しています。

Data
新潟県上越市本町6-4-22
Tel.025-520-7140 <https://www.terrasky.co.jp>

高田世界館

明治44年創業。現役で営業する映画館としては日本最古級と言われ、長年こだわりの映画を楽しめます。館内の見学も可能。

Data
新潟県上越市本町6丁目4-21
Tel.025-520-7626(火曜定休)
<http://takadasekaikan.com>



data
株式会社テラスカイ
原 諒太朗さん 上越市在住
1981年神奈川県生まれ。2014年10月に(株)テラスカイに転職。2017年4月上越サテライトオフィス開設時に所長兼エンジニアとして移住。

箕輪 雄太さん 上越市在住

1987年上越市生まれ。
2007年に(株)テラスカイに入社。サテライトオフィス開設と同時に上越市にUターン。



私がご紹介!
食べ物が美味しいまち
上越市 chick!

豊かな自然が生み出すおいしいものがいっぱいの上越市。上越産コシヒカリや野菜、魚介類も豊富にとれ、地元の新鮮な農産・海産物が食べられる地域です。



株式会社テラスカイ 上越サテライトオフィス
町家をリノベーションしたオフィス。プログラミング教室の開催等、地域の人と接する場としても機能しています。

Data
新潟県上越市本町6-4-22
Tel.025-520-7140 <https://www.terrasky.co.jp>

高田世界館

明治44年創業。現役で営業する映画館としては日本最古級と言われ、長年こだわりの映画を楽しめます。館内の見学も可能。

Data
新潟県上越市本町6丁目4-21
Tel.025-520-7626(火曜定休)
<http://takadasekaikan.com>